

コロナ禍における新聞と Twitter の「デマ」比較

○白井 夏樹 (Natsuki Shirai)、藤代 裕之 (Hiroyuki Fujishiro)

Keywords : デマ、ソーシャルメディア、マスメディア、新型コロナウイルス

1 目的

本研究の目的は、マスメディアとソーシャルメディアにおいて「デマ」という言葉がどのように使われているのかを明らかにすることである。デマとは、政治的効果をねらって、意図的に流される虚偽の情報のことを言うが、様々な意味で使用されている。コロナ禍により人々の不安が高まる中で、様々な虚偽情報がソーシャルメディア上で流れたが、実際には拡散していない「デマ」をマスメディアが拡散していると報じるなど混乱も見られた。

2 方法

本研究では、マスメディアとソーシャルメディアで使われている「デマ」を取得し、分析する。期間は新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた 2020 年 3 月 1 日から、緊急事態宣言解除後の 5 月 31 日までとする。マスメディアは、全国紙 3 社のデータベースを利用し「デマ」を含む記事を収集した。ソーシャルメディアは「デマ」を含むツイート計 3 万件のデータを収集した。これらのデータを比較し、分析する。

3 結果

分析の結果、新聞では、コロナ禍における「デマ」によって影響を受けた店舗に関する報道や、ソーシャルメディアで「デマ」が拡散しているという報道が行われていた。一方、Twitter では、政治に関連する話題やマスメディアへの批判に「デマ」という言葉が使われていた。このように「デマ」という言葉の使われ方にはズレがあることが分かった。

4 結論

以上により、コロナ禍における「デマ」という言葉の使われ方のズレは、読み手に混乱を生じさせるだけでなく、確認すべき虚偽情報が見落とされてしまう可能性も生じさせていた。近年注目が集まる真偽確認や新型コロナウイルス感染症に関する情報提供においては、言葉の使われ方のズレを確認することが必要であると考えられる。

【主要参考文献】

鳥海不二夫,2020「非実在型炎上とその影響」,第4回情報法制シンポジウム
総務省総合通信基盤局,2020,「新型コロナウイルス感染症に関する情報流通調査」